2006 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">生理解剖学B</p>	<p>対象学科・学年</p> <p style="text-align: center;">人間社1 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">鍋谷 登</p>
<p>授業テーマ</p> <p style="text-align: center;">人の身体の構造と機能について理解を深める</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>身体の機能を知るためには、構造の理解が必要であり、その相互の関係について講義する。 生理解剖学 A と B とで一連の系統講義を行う。知識の整理と疑問から学習への意欲を高めるために、講義の最初にビデオを用い、また、テキストを講義前後に熟読されたい。そして、その都度、知識を確実なものとしていく。このような身体の構造と機能を知ることは、保健領域で学ぶこと、あるいは、保健分野の専門家になるための基礎となるので、留意されたい。</p>		
<p>評価方法</p> <p style="text-align: center;">中間または学期末の定期試験 出席及びビデオレポート</p>		
<p>テキスト</p> <p style="text-align: center;">イラスト図解 人体のしくみ</p>	<p>著者</p> <p style="text-align: center;">坂井建雄</p>	<p>出版社</p> <p style="text-align: center;">日本実業出版社</p>
<p>参考書</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p>生理解剖学AとBとは一連の講義内容となる。講義では、動機付けにNHKで放映された「人体」を教材に用いる。テキストの予習とあわせて、簡単なレポートを作成後、関連した内容の講義を行う。その際に、追加の資料を用いて講義する。</p> <p>Bでは、おもに、ヒトが身体を維持するための「ホメオスターシス」を主眼において、不要物の排泄に関する腎臓、調整の中核である神経や感覚器、ホルモン、免疫、そして、次世代への受け渡しの生殖・遺伝といった近代医学で発展してきた内容を中心に行う。それぞれの内容に関連する医学的なトピックスも適宜、補足していく。</p> <p>順番に暗記していくといった通常の知識習得でなく、どうなっているのだろうか？という疑問を解決していくような内容であるので、細かい知識を記憶するだけでなく、全体中での位置づけを知るように学習されたい。また、随時、知識を確かな物とするために、実際の臨床現場（医療）の経験をふまえて、疾病に関する内容にもふれていく。</p> <p>各領域1～6は、一つで2コマ分の講義内容を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. からだの老廃物をすてる <ul style="list-style-type: none"> 腎臓の構造と機能 尿産生および排泄のメカニズム 2および3. からだの機能を調整する <ul style="list-style-type: none"> 神経系の構造と機能 内分泌系の構造と機能 神経伝達のメカニズム ホルモンの働きと作用 4. 外界から情報を収集する <ul style="list-style-type: none"> 感覚器の構造と機能 音や光、振動など、感じるメカニズム 5. 身体を守る <ul style="list-style-type: none"> 免疫系の構造と機能 病原菌からからだを防御するメカニズム 6. 次世代にヒトの情報を伝える <ul style="list-style-type: none"> 生殖器の構造と機能 遺伝のメカニズム 		